

令和4年度第1回神奈川県独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構運営協議会 開催概要

1 開催日時 令和4年7月8日（金）14時00分～16時30分

2 開催場所 関東職業能力開発促進センター131会議室

3 主な議題

- ・令和3年度事業実施結果について
- ・令和4年度事業計画及び実施状況について

4 議事経過

施設見学の後、事務局から資料説明し、意見交換を行った。各委員からの主な意見等は以下のとおり。

【離職者訓練】

- ・施設見学をさせてもらったが、どのコースも魅力的であり、ポリテクセンターのものづくりの強みを感じた。
- ・初めて離職者訓練の見学をした。多くの人にポリテクセンターを見学できる場を提供して欲しい。新しい分野に挑戦したい人など潜在的なニーズはあると思う。そういう方にPRするには、ハローワークだけでなく転職サイト等も使い、受講者を増やしていくことも必要ではないか。
- ・製造業、建設業は人材不足であり、特に若い人が採用できない状況にある。今日、ポリテクセンターを見学し、企業が求めている人材が育っているのがわかった。まだ、ポリテクセンターがどのような施設か知らない企業もあるので、ポリテクセンターの修了生を採用したいという指名求人が広まるよう、企業に向けてPRを行い、企業と人材のマッチングをしていく必要がある。
- ・ハローワークの職員が窓口で求職者の方にこのような訓練コースがあることを案内するかが重要であると理解した。引き続きハローワーク職員向けの見学会を設定していただきたい。

【在職者訓練】

- ・在職者訓練の関係は、ポリテクセンターが積極的に広報をしているので、協会の会報でほぼ毎回案内しているが、業界により景気のいいところとそうでないところがあり、なかなか先が見えない状況ではあるが、地道にPRするしかない。コロナ

禍で、大手企業の中でも研修を止めているところがあるが、ポリテクセンターでしっかりとしたコロナ対策を行い、良い訓練をやっているならば、PR方法を工夫することで新規企業も開拓できるのではないかと。

【高度職業訓練】

- ・ 港湾短大横浜校は、就職率は毎年 100%となっており、課題は、いかに学生を集めるかになっている。若者が、港湾の仕事に、興味、関心をもってもらうことが大事だが、それだけを発信するならば若者は来てくれない。就職先である企業の労働環境を若者の魅力があるものにする必要がある。労働環境の整備に向けていろいろな方の支援が必要である。

神奈川県独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構運営協議会委員

三井 逸友 (会長)	(横浜国立大学名誉教授)
萩原 常康	(日産モノづくり大学校長)
名和 聖高	(愛知大学名誉教授)
吉田 勝行	(株神奈川新聞社統合編集局経済部長)
新 敦	(U Aゼンセン神奈川県支部長)
金井 克之	(連合神奈川副事務局長)
二見 稔	(神奈川県経営者協会専務理事)
大竹 准一	(神奈川県中小企業団体中央会副会長兼専務理事)
伊東 祐治	(神奈川県商工会連合会専務理事)
仙田 亮	(神奈川労働局職業安定部長)
木本 睦子	(神奈川労働局雇用環境・均等部長)
井上 秀夫	(神奈川県産業労働局労働部産業人材課長)